

ユニバーサルデザイン研究所の設立に関する研究

Toward the Establishment of Universal Design Research Institute at SUAC

古瀬 敏

デザイン学部空間造形学科

Satoshi KOSE

Department of Space and Architecture, Faculty of Design

林 左和子

文化政策学部文化政策学科

Sawako HAYASHI

Department of Regional Cultural Policy and Management, Faculty of Cultural Policy and Management

小杉 大輔

文化政策学部文化政策学科

Daisuke KOSUGI

Department of Regional Cultural Policy and Management, Faculty of Cultural Policy and Management

三好 泉

前デザイン学部生産造形学科

Izumi MIYOSHI

Department of Industrial Design, Faculty of Design

谷川 憲司

デザイン学部生産造形学科

Kenji TANIKAWA

Department of Industrial Design, Faculty of Design

迫 秀樹

デザイン学部生産造形学科

Hideki SAKO

Department of Industrial Design, Faculty of Design

高山 靖子

デザイン学部生産造形学科

Yasuko TAKAYAMA

Department of Industrial Design, Faculty of Design

的場ひろし

デザイン学部メディア造形学科

Hiroshi MATOBA

Department of Art and Science, Faculty of Design

本学では、大学設立以来 10 年余にわたってユニバーサルデザイン教育を推進してきており、また地域との協働も目指してきた。その結果、ユニバーサルデザインにかかる教育成果は大学学部レベルではわが国でトップクラスになった。さらに静岡県、浜松市におけるユニバーサルデザインの浸透はかなりの段階にまで達している。また、国際的にも第 3 回国際ユニバーサルデザイン会議の開催時のプレゼンスなど、一定の段階まで到達した。そこで、今回はさらに次のステップに進むための条件を検討することにした。

Shizuoka University of Art and Culture has been conducting universal design education for more than ten years since its establishment. It also tried to cooperate with the local governments and the community. Educational accomplishments have reached a top level in Japan. Understanding of universal design among the citizens has come to a heightened stage. All these accomplishments were reported with evidence at the Third International Conference for Universal Design in Hamamatsu in 2010. Therefore we sought what we can do next toward a more fulfilling outcome through various activities.

はじめに

本学は開学以来ユニバーサルデザイン教育を先進的に推進してきた。また、静岡県や浜松市とともに国際シンポジウムなどを何度か開催することを通じて、ユニバーサルデザイン研究成果の普及による地域との協働もめざしてきた。この 10 年間に渡る教育実践成果は、大学学部レベルではトップクラスの水準となっている。また、国際的な研究連携は、2010 年 10 月に開催された「国際ユニバーサルデザイン会議イン浜松」の場で一定の段階に至った。

しかし、今後到来する超高齢社会を考えると、より幅広いデザイン分野においてユニバーサルデザインの理念および実践の重要度はこれまで以上に高まる。とくに地域に開かれた大学として、ユニバーサルデザイン教育による人材育成だけでなく、地域とともにユニバーサルデザイン研究を行い、成果を生み出すことが求められている。ことに急

速な高齢化が現在の市の形の大変容を求めているという指摘もすでになされており、その点の検討も喫緊の課題である。

そこで、ユニバーサルデザイン教育の向上と活用できる人材の創出、および研究成果の創出とそれによる支援のための拠点（研究所）設立・運営に関する研究を行うことにした。

浜松市の次期ユニバーサルデザイン計画策定への関与

U・優プラン（浜松市ユニバーサルデザイン計画）は 2002 年 3 月に策定されているが、それ以来 10 年が経つことから、全体を見直す必要があると判断された。その作業に当たって本学の参加が要請され、できるかぎり協力することになった。具体的には「第 2 次浜松市ユニバーサルデザイン計画策定協働会議」に 1 名が委員として参

加するとともに、市民意識アンケート調査結果の分析のために本学が作業事務局として加わった。

浜松市では、平成15年度から数年おきにユニバーサルデザインに関する市民意識調査を行っており、平成23年度にもほぼ従前と同様な調査が行われた。以下にその結果とわれわれの分析・評価を記す。

ユニバーサルデザインを知っているという回答と、言葉は知っている（聞いたことがある）という回答を合わせた割合はこの10年間ほぼ70%を維持している。知らないという回答が30%前後で変わりがなから、よほどのことがないかぎりこれ以上認知度を高めるのは難しいと判断され、内容を知っている・言葉は知っているという合計の中で内容を知っているという割合（23年度はほぼ40%）を高めるのが今後の目標になると思われる。

但し、年齢別に見ると、若者（20歳代・30歳代）と高年齢層（60歳代・70歳以上）にUDの情報が十分届いていない。とくに後者はユニバーサルデザインの受益者となるはずであり、知らないことで損をしている可能性が高い。市民の間での他者への思いやり意識はそれなりに高い。これには日系ブラジル人が周りにごく当たり前前に働き、暮らしていることも関係しているかもしれない。

日常生活・民間の対応などにおけるUDの広まりを感じるか、誰でも暮らしやすい地域と感じるかについて、UDを知る人にはよくなっている点が認識されつつあるものの、全体として指摘される問題もかなりあり、まだ課題は多い。たとえば、歩行者・自転車の利用しやすさ改善、トイレや休憩所の使いやすさ改善、案内サインの改善について、要望する声が強いの。

とはいえ、一般的に公共施設の利用のしやすさは評価されている。その一方で、民間施設にはまだ課題が多い。ハートビル法そしてバリアフリー新法によって、対応を求められていることがさまざまな難しさもあって実現に結びついていないということであろう。（とくに難題なのは、建築物を改修しようとすると、既存不適格となっている構造・防火要件なども同時に現行要求水準にまで上げなければならないという法規の枠組みである。これを何とかしないと、努力義務がかかっている既存建築物には手がつけられないというのが現状である。）今後欲しいものとしては、UD地図、UD製品など、UD活動など、さまざまな側面についての情報提供が求められている。

こうした結果を踏まえると、今後のUD展開にあたっては、以下の活動推進が効果的であると判断された。

1. UDのわかりやすく総合的な情報提供：たとえば浜松市のUDの歴史、姿勢、取り組み、製品情報、UDマップ、市民活動など。
2. 高年齢者層に対する啓発：的確な情報提供と、当事者としての社会活動参画の呼びかけ。
3. 若者層に対する啓発：的確な情報提供と、30年・40年先の将来像を共有する形での意識高揚。なお、高齢者と若年者とは、より効果的な情報提供の方法が異なるだろう。
4. 歩道・自転車道に関する長期視点での整備。これまではどうしても自動車優先だったのを修正する必要がある。
5. トイレや休憩所、案内サイン等についての使いやすさ評価による問題点把握。トイレについては管理上の問題の

指摘もあるので、人の目が行き届く方策も同時に考えるべきである。

6. 民間施設改善に向けた施策：バリアフリー法に基づく地方条例導入などをそろそろ考えるべき時期に来ている。

なお、最終的にU・優プラン2（第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画）は年度末につくられ、2012年度から運用されている。中身は下記ウェブで見られる。

<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/study/universal/u-youplan2/mokuji.htm>

はままつユニバーサルデザイン国際シンポジウム：「市民協働によるこれからのユニバーサルデザイン—私にできることは？」

本特別研究実施の一環として、2012年2月9日午後15時30分から17時30分まで、本学講堂において、浜松市と共催ではままつユニバーサルデザイン国際シンポジウム2012を開催した。

誰にとっても住みやすく、暮らしやすい浜松市にするために、私たち市民一人ひとりがどのようにすれば持てる力を発揮できるか。市民と協働で策定中の第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画の中では、UDの実践に向けて市民協働を中心に据え、市民のこれまで以上のより積極的な関与が期待されている。この点を広く市民にアピールするのが市役所の希望であり、一方本学としては、これまでどおりユニバーサルデザイン研究の中心になっていくことを表明するのが今回のねらいであった。

シンポジウムは、浜松市山崎副市長と本学河原林副学長のあいさつに続いて、スペインのバルセロナに本拠地を置いているデザインフォアオール財団会長のフランチェスク・アラガイ氏より、「ヨーロッパにおけるユニバーサルデザインの動向」について講演があった。国連の障害者権利条約をほとんどの国が批准している状況の下で、2020年の到達目標が説明された。休憩を挟んで、昭和女子大学学長の坂東真理子氏からは、「これからの日本でのユニバーサルデザインの課題」と題して、これまでの豊富な経験を交えて、ハードの整備だけではうまくいかないとの指摘がなされた。

再度休憩の後、パネルディスカッションが開始された。ユニバーサルデザインを施策の中心に据えて積極的に取り組んでいる3つの自治体から、異なった立場を代表するパネリストに登壇願った。まず浜松市からは来年度から第二期に入る「ユニバーサルデザイン計画」の策定会議会長を務めている杉浦政紀氏から、浜松市におけるこれまでの経過と今後の方向が述べられた。次いで、佐賀県健康福祉本部長の平子哲夫氏より、佐賀県が行ってきたさまざまな施策について紹介があった。3人目は岩手県立大学社会福祉学部狩野徹教授で、とくに岩手県では東日本大震災への対応がどうなされているかについての話題提供をお願いした。

こうした発表を受けて、ユニバーサルデザインをさらに深め実効のあるものにするためにはどうすればいいかについて意見を交換した。そのなかで、ヨーロッパなどでは強力な法規制を伴うかたちで進める合意がなされているのに対して、我が国ではどの程度までそれにならうことができるだろうかという点が議論になった。もう一つの論点は、

大規模災害時の対応についてである。東日本大震災が起きる前は、災害時にあってもユニバーサルデザインの基本理念がきちんと満足されるかどうかについてあまり意識されてこなかったが、基盤ができていなかったところのほうに災害後の問題も大きかったのではないかと、また、これを教訓に災害にも強いユニバーサルデザインを整備していくべき、との指摘もあった。まとめとして、浜松市の次期計画がいみじくも述べているように、ハード、ソフト、ハートという3つ、きちんとした環境整備、仕組みそして人々の意識改革があいまって初めてうまくいくであろうとの総括がなされた。

なお、シンポジウムの際には情報保障のため、手話通訳とパソコン利用の要約筆記が行われた。このシンポジウムの記録は、過去のこうした催しと同様にウェブに掲載されている。<http://homepage2.nifty.com/skose/UD2012rep.pdf>

ユニバーサルデザイン絵本コンクールの実施

本年度も昨年度に引き続いて「ユニバーサルデザイン絵本コンクール」を実施した。ただし、10周年記念事業だった昨年(注1)とは状況がことなることから、子どもから大学生までに応募対象を絞った。2011年10月1日(土)から2012年1月10日(火)まで募集し、応募作品は以下のとおりであった。

1. 子ども部門: 76点(うち小学生55点 中学生21点)。なお中学生のうち2点は特別支援学校中等部。
 2. 高校生部門: 3点
 3. 大学生部門: 11点
- 審査委員会を開催して審査した結果、次のように受賞作品を決定した(注2)。



1. 大賞：1点 「ユニバーとバーサル」 蒲小学校 小川実のり、竹下夏実
2. 子ども部門優秀賞：3点
「あんととすうじのおしろ」 袋井中学校 西尾俊希
「町の中のユニバーサルデザイン」 蒲小学校 長屋花梨ほか2名
「ユニバーサルデザインがある場所」 蒲小学校 伊藤翔太
3. 子ども部門佳作：4点
4. 高校生部門優秀賞：2点
「めくりやすい絵本2」 吉原高校 遠藤詩織
「だじゃれ辞典」 浜松開誠館高校 満田亜実
5. 高校生部門佳作：1点
6. 大学生部門優秀賞：3点
「おおきさなんか関係ない!」 東洋大学 幼なじみ
「ESCOLA do JAPAO em Hamamatsu」 静岡文化芸術大学 金城ジゼレ
「ハチの冒険」 静岡文化芸術大学 青山育子
7. 大学生部門佳作：2点

これらの受賞作品は2012年2月11日(土)から2月19日(日)まで大学で展示されたほか、東京の大崎ゲートシティで3月17日と18日に行われた「子どもの本

の日フェスティバル」の一環である「世界のバリアフリー絵本展2011」の会場でも一部を展示した。

小学生から大学生まで、さまざまな視点から自分の考えるユニバーサルデザインを絵本の形にまとめた今回の応募作品はそれぞれに特徴があったが、来年度はもっと多くのところに応募を呼びかけるための方策を考えている。

注

注1：10周年記念事業の結果は<http://www.suac.ac.jp/news/topics/712.html>に掲載されている。

注2：2011年度の結果詳細は、<http://www.suac.ac.jp/news/topics/940.html>に掲載されている。

参考文献

- ユニバーサルデザインの地域での実践に向けて：古瀬敏、阿蘇裕矢、根本敏行、静岡文化芸術大学研究紀要8(2007)
ユニバーサルデザインの地域での実践に向けて(その2)：古瀬敏、根本敏行 静岡文化芸術大学研究紀要9(2008)
ユニバーサルデザインの地域での実践に向けて(その3)：古瀬敏、根本敏行、静岡文化芸術大学研究紀要10(2009)
ユニバーサルデザインの地域への浸透方策に関する研究(その1)：古瀬敏、根本敏行、静岡文化芸術大学研究紀要、11(2010)
ユニバーサルデザインの地域への浸透方策に関する研究(その2)：古瀬敏、根本敏行、三好泉、坂本鐵司、静岡文化芸術大学研究紀要、12(2011)